# 鶏 肉 情 勢

令和5年3月13日 更新　　全農チキンフーズ㈱

| 項目 | | 内容 |
|---|---|---|
| 供給 | 1. 国内 | (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和5年1月末実施)によると、1月の推計実績は処理羽数60,091千羽(前年比100.8%)、処理重量182.3千ﾄﾝ(同101.1%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は1.8%下方修正され、処理重量は、ほぼ計画値通りとなった。育成は概ね順調で、処理羽数の前月計画からの減少に比べ、処理重量の減少値が少なかったことから、増体は良かったことが伺える。肉用鶏農場では比較的発生を抑えられているものの、鳥インフルエンザの流行は過去最悪の状況であり、移動制限区域に該当したために出荷に影響が出ているとの話も聞かれる。<br>(2) 2月の計画は処理羽数、処理重量とも前年をわずかに上回る見通しとなっている。地区別で見ると処理羽数は中部地区、近畿・中国・四国地区以外で前年を上回る見通しであり、処理重量は中部地区、近畿・中国・四国地区、南九州地区以外は前年を上回る見通しである。今期は鳥インフルエンザの感染が爆発的に広がっており、今後も発生が続く恐れがあり生産への影響が懸念される。2月頭には種鶏農場での発生が報告されており、今後の生産へどの程度の影響がでるか状況を注視していきたい。<br>また、工場の人員不足は引き続き厳しい状況が続いており、加工品(切り身・手羽中二ツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の調整は続くと思われる。 |
| | 2. 輸入 | (1) 財務省2月24日公表の貿易統計によると令和5年1月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から＋0.1千ﾄﾝの44.4千ﾄﾝで、国別ではブラジルが＋2.2千ﾄﾝ、タイで▲1.4千ﾄﾝとなっている。前年同月の実績に対しては▲9.4千ﾄﾝとなった。米国産の減少が続いているものの、タイ産・ブラジル産は安定した数量となっている。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、2月が49.0千ﾄﾝ(前年比98.9%)、3月が51.0千ﾄﾝ(前年比111.0%)となっている。2月は前月に比べ増加が予想される。ブラジル産の国内市場価格は下げ基調であったが、先物のオファーにおいて強気の価格が提示されているとの話が聞こえており、今後は上昇傾向となることが予想される。しかしながら、国産品価格が依然として高値で推移している影響を受け、一定の需要は継続されることが予想される。タイ産は製造の回復により今後も引き続き増産が予想され、国産むね肉への影響が考えられる。<br><br>(2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から▲6.1千ﾄﾝの34.3千ﾄﾝで、国別では中国が▲3.0千ﾄﾝ、タイが▲3.1千ﾄﾝとなった。前年同月の実績に対しては▲8.9千ﾄﾝとなり、前月比・前年比ともに下回る結果となった。タイの生産は回復したが1月実績は減少となった。令和4年4月～令和5年1月累計では前年比104.3%となっている。価格については現地価格も高騰しており、上昇傾向が予想される。外食については徐々に回復傾向となっており、中食・総菜向け等の引き合いも継続して強い状況である。<br><br>(3) 財務省が2月24日に公表した貿易統計によると1月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より17.0%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より16.8%上昇した。国別ではブラジル産の価格が315円/kg(前月比56円安)、タイ産が373円/kg(同49円安)となっている(国別平均価格)。前月比では大幅に価格が下がったが、前年比では高値が続いている状況である。ブラジル産は1月実績では下げ基調となっているが、先物については強気の価格が提示されているとの話が聞こえており、徐々に上昇傾向となることが予想される。タイ産については引き続き製造量の増加していることや円安の落ち着きによって市場価格も下げ基調となってきている。今後の国産鶏肉への影響に注視したい。 |
| 需要 | 1. 家計消費 | (1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和5年1月の生鮮肉消費(購入)は数量4,253g(前年比95.2%)、金額6,775円(同104.6%)と、数量は前年を下回り、金額は前年を上回った。鶏肉は数量1,491g(同95.4%)・金額1,559円(同107.5%)・単価104.6円/100g(前年同月+11.8円)と、数量は前年を下回り、金額・単価とも前年を上回る結果となった。調理食品が金額11,979円(同105.3%)、外食が13,956円(同121.3%)となっている。あらゆる商品の値上げが相次ぐ中、相場高騰により鶏肉の店頭売価も上がり、買い控えが進んだと思われる。外食においては、行動制限もなく、全国旅行支援も実施され、加えて入国規制緩和による外国人旅行客によるインバウンド需要もあり、回復基調にあると考えられる。 |
| | 2. 量販・卸 | (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和5年1月の食品売上高は全店ベースで前年比102.7%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同101.4%、既存店ベースは同99.8%となった。また、畜産部門の売上高は約1,186.7億円で全店ベース同103.4%、既存店ベース同101.7%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、値上げ、節約志向による買上点数の減少、前年の「まん延防止等重点措置」からの反動、下旬の寒波による来店客数の減少や鳥インフルエンザの影響による卵の欠品等もあり苦戦が続いているとのこと。<br>畜産部門においては、相場の高騰が続き、買上点数の伸び悩みが続いているなか、気温の低下により、豚肉や鶏肉などの鍋物用の商材の動きはよく、牛肉は国産の動きがよいが、豚肉は国産高騰により輸入品の動きがよい。加工肉は価格が高騰しており伸び悩んだ。相場高騰、相次ぐ値上げの中、価格訴求が出来ずに販売に苦心していて、売上高は確保したものの、利益を圧迫している店舗が多いとの見解もあった。 |
| | 3. 業務・加工筋 | (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和5年1月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比105.2%の4.2千ﾄﾝとなった。うち国内品は同108.6%の3.5千ﾄﾝと前年を上回り、輸入品については同91.1%の0.7千ﾄﾝと前年を下回った。 |
| 在庫 | 1. 令和5年1月 | (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産24.4千ﾄﾝ(前年比69.6%・前月差▲0.2千ﾄﾝ)、輸入品125.6千ﾄﾝ(同101.9%・同+1.4千ﾄﾝ)と合計で150.0千ﾄﾝ(同94.8%・同+1.2千ﾄﾝ)となった。 |
| | 2. 見通し | (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、1月の出回り量は国産137.4千ﾄﾝ(前年比99.6%・前月差+14.7千ﾄﾝ)、輸入品43.0千ﾄﾝ(同95.5%・同▲7.1千ﾄﾝ)と合計で180.3千ﾄﾝ(同98.6%・同▲21.9千ﾄﾝ)となった。2月以降の国産在庫については、販売も落ち着きつつあるので、若干増加していくと予測する。輸入鶏肉については(独)農畜産業振興機構(ALIC)の予測では、2月・3月の出回り量は前年同月を下回ると予測されている。入荷量は前年同期の在庫数量が低水準であったことでブラジル産の輸入量が多かったこと等から2月は前年を下回る見通しであり、3月はタイ産むね肉の数量増加、ブラジル産の増加も見込まれること等から、前年をかなり大きく上回ると予測されている。期末在庫は2月は前年を下回り、3月は前年をわずかに上回ると予測する。 |
| 相場 | 1. 令和5年2月動向 | (1) 令和5年2月の月平均相場は、モモ肉800円/kg(前月差▲5円)・ムネ肉414円/kg(同▲8円)正肉合計で1,214円/2kgと前月を13円下回り、前年同月を245円上回った。モモ肉相場は月初802円、月末は806円となり(昨年は月初646円、月末639円で7円の下げ)、昨年の相場を大幅に上回った。<br>一部の産地にて寒波の影響による出荷調整や、鳥インフルエンザの影響(2月国内5例発生)による供給減により、販売は落ち着きつつあるが、荷余り感はさほど感じられない。<br>相場も緩やかな下落傾向にあるものの、2月も引き続き高水準を維持した。 |
| | 2. 見通し | (1) 3月の生産量は、ほぼ前年並みの計画である。しかし、鳥インフルエンザの発生が3月10日時点で今季国内25道県78例目まで報告されており、今後も拡大する恐れがある。2月3日、肉用種鶏農場では今シーズン初の鳥インフルエンザの感染が鹿児島県で確認され、今後の生産への影響が懸念される。また、南米でも野鳥での鳥インフルエンザの発生が確認され、アルゼンチン・ペルーでは家きんでの発生も確認されている。鶏肉輸出大国であるブラジルへの拡散が懸念される。<br>量販店は相場高の影響で輸入解凍品や手羽元を価格訴求品として販売している店舗も多いと聞かれる。加工原料も輸入価格の高騰により、国産品にシフトしていたが、再び輸入品に切り替える動きがあると聞かれる。生鮮品の動きも落ち着き、ひっ迫感はなくなった。<br>以上のことから、鳥インフルエンザの影響による供給減が懸念されるが、モモ肉相場・ムネ肉相場ともに下げのモモ肉相場月平均790円、ムネ肉相場月平均405円と予測する。<br><br>(2) 2月に入り売れは落ち着き、昨年から減少していた冷凍品在庫も少し積み増しの傾向が出てきたものの荷余り感はさほど感じられない。。冷凍品価格も輸入品価格の下げに伴い、下げ基調となっている。量販店では輸入解凍品を販売する店舗も増えてきた。しかしながら、今後も食品をはじめ様々な物価高騰による値上げが続くことから、節約志向が働き、他の畜種と比較すれば安価な鶏肉の販売は順調に推移すると思われる。鳥インフルエンザの影響で供給量が低下することが予測されることから、若干の下げはあるものの鶏肉相場は高水準で推移していくと思われる。 |

## 実　績

### 生産状況

単位:千羽、千ﾄﾝ、%

| | R4年累計 | | R5年1月推計実績 | | R5年2月計画 | | R5年3月計画 | | R5年4月計画 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 |
| 入雛羽数 | 774,648 | 100.1% | 65,318 | 101.8% | 60,899 | 102.5% | 64,349 | 100.7% | 64,864 | 99.1% |
| 処理羽数 | 737,283 | 100.4% | 60,091 | 100.8% | 58,509 | 102.0% | 65,474 | 100.2% | 62,148 | 99.8% |
| 処理重量 | 2,216.4 | 99.9% | 182.3 | 101.1% | 175.6 | 101.0% | 196.9 | 100.1% | 186.4 | 99.2% |

※参考資料:㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」

### 輸入動向

単位:千ﾄﾝ、%

| 品名 | 鶏肉 | | | 調製品 | | | 合計 | | | 比率 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履歴 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 鶏肉 | 調製品 |
| R3年累計 | 595.8 | 535.0 | 111.4 | 481.0 | 469.5 | 102.5 | 1,076.8 | 1,004.5 | 107.2 | 55.3 | 44.7 |
| R4年8月 | 47.4 | 46.9 | 100.9 | 47.8 | 44.1 | 108.5 | 95.2 | 91.0 | 104.6 | 49.8 | 50.2 |
| R4年9月 | 46.8 | 45.2 | 103.5 | 44.3 | 31.8 | 139.2 | 91.1 | 77.0 | 118.3 | 51.4 | 48.6 |
| R4年10月 | 53.9 | 51.2 | 105.3 | 44.1 | 35.2 | 125.4 | 98.1 | 86.4 | 113.5 | 55.0 | 45.0 |
| R4年11月 | 49.8 | 57.8 | 86.2 | 43.1 | 43.8 | 98.5 | 92.9 | 101.5 | 91.5 | 53.6 | 46.4 |
| R4年12月 | 44.3 | 60.7 | 73.0 | 40.4 | 48.2 | 83.8 | 84.7 | 108.9 | 77.8 | 52.3 | 47.7 |
| R4年累計 | 574.5 | 595.8 | 96.4 | 525.8 | 481.0 | 109.3 | 1,100.3 | 1,076.8 | 102.2 | 52.2 | 47.8 |
| R5年1月 | 44.4 | 53.8 | 82.5 | 34.3 | 43.2 | 79.4 | 78.7 | 97.0 | 81.1 | 56.4 | 43.6 |

※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

### 鶏肉の消費動向

単位:グラム、円、%

| 履歴 | 数量 | | | 金額 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 |
| R3年平均 | 1,526 | 1,565 | 97.5 | 1,410 | 1,440 | 97.9 |
| R4年8月 | 1,372 | 1,449 | 99.9 | 1,309 | 1,341 | 106.3 |
| R4年9月 | 1,492 | 1,546 | 94.7 | 1,386 | 1,383 | 97.6 |
| R4年10月 | 1,574 | 1,559 | 96.5 | 1,534 | 1,424 | 100.2 |
| R4年11月 | 1,495 | 1,536 | 97.3 | 1,505 | 1,429 | 105.3 |
| R4年12月 | 1,729 | 1,695 | 102.0 | 1,854 | 1,702 | 108.9 |
| R4年平均 | 1,510 | 1,526 | 99.0 | 1,448 | 1,410 | 102.7 |
| R5年1月 | 1,491 | 1,563 | 95.4 | 1,559 | 1,450 | 107.5 |

※参考資料:総務省統計局HP　家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

### 相場(年別・暦年)

単位:円

| | モモ肉 | ムネ肉 | 計 |
|---|---|---|---|
| H27年 | 639 | 336 | 975 |
| H28年 | 621 | 255 | 876 |
| H29年 | 626 | 315 | 941 |
| H30年 | 595 | 282 | 877 |
| R元年 | 585 | 243 | 828 |
| R2年 | 614 | 269 | 883 |
| R3年 | 641 | 313 | 954 |
| R4年 | 662 | 348 | 1,010 |

### 在庫状況(推定)

単位:千ﾄﾝ、%

| 履歴 | 国産 | | | 輸入品 | | | 合計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 |
| R4年8月 | 28.5 | 34.9 | 81.7 | 121.2 | 111.4 | 108.8 | 149.7 | 146.3 | 102.3 |
| R4年9月 | 25.8 | 33.8 | 76.5 | 121.2 | 107.6 | 112.7 | 147.1 | 141.4 | 104.0 |
| R4年10月 | 25.2 | 34.7 | 72.7 | 127.5 | 108.2 | 117.8 | 152.7 | 142.9 | 106.9 |
| R4年11月 | 23.4 | 33.6 | 69.7 | 129.9 | 114.7 | 113.3 | 153.3 | 148.2 | 103.4 |
| R4年12月 | 24.6 | 35.5 | 69.5 | 124.2 | 114.4 | 108.5 | 148.8 | 149.9 | 99.3 |
| R5年1月 | 24.4 | 35.1 | 69.6 | 125.6 | 123.2 | 101.9 | 150.0 | 158.3 | 94.8 |

※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

### 相場(月別)

単位:円、%

| 品名 | モモ肉 | | | ムネ肉 | | | 正肉合計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履歴 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 |
| R4年10月 | 697 | 603 | 115.6 | 376 | 328 | 114.6 | 1,073 | 931 | 115.3 |
| R4年11月 | 729 | 619 | 117.8 | 396 | 333 | 118.9 | 1,125 | 952 | 118.2 |
| R4年12月 | 773 | 641 | 120.6 | 417 | 340 | 122.6 | 1,190 | 981 | 121.3 |
| R4年1-12月 | 662 | 641 | 103.3 | 348 | 313 | 111.2 | 1,010 | 954 | 105.9 |
| R5年1月 | 805 | 649 | 124.0 | 422 | 330 | 127.9 | 1,227 | 979 | 125.3 |
| R5年2月 | 800 | 646 | 123.8 | 414 | 323 | 128.2 | 1,214 | 969 | 125.3 |
| R5年3月 | (790) | 631 | 125.2 | (405) | 316 | 128.2 | (1,195) | 947 | 126.2 |
| R5年4月 | (780) | 622 | 125.4 | (390) | 315 | 123.8 | (1,170) | 937 | 124.9 |

※()は見通し